

颯「はーと！」 凪  
「なーの」 颯・凪「Tig  
Hugラジオー！」

あだな

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

日曜の午後2時から15分間だけのO—K—U—R—i—M—O—N—O。  
双子のほのぼのトークを楽しめるラジオ番組。

第1話

# 目次

1



## 第1話

颯「さてさて本日も始まりましたT i g H u gラジオ！日曜日の午後2時、皆さんいかがお過ごしですか？

遅めのお昼を食べてる人、友人と買い物を楽しんでる人、はたまた休日出勤でお仕事中の人も…この時間だけは心穏やかに私たちのO—K u—R i—M o—N oに耳を傾けてくれたら嬉しいですよ！」

颯「この番組は、遊びきれない毎日を、バンダイナムコエンターテインメントと「新築とりフォームのことならツバサ建設、あなたに最高の一台を、サイコーモーターズの提供でお送りいたします」

—冒頭CM中—

颯「はーちゃん、だいぶ前口上が様になってきましたね」

颯「えへへ、プロなんだからこれくらい当然♪ はーだつて最初は提供に変なアレンジ加えようとして怒られてたのに、ちゃんと出来るてるじゃん」

颯「出資者には敬意を払え、芸能界のルールですね。大人の事情ともいう」

ディレクター（以下、D）「今日のゲストさん入りまーす」

？「おはようございまーす。すいません、ギリギリになっちゃって」

颯「あつ、来た来た！大丈夫ですよー」

？「ありがとうございますいまーす。わあー、本当に双子だー☆」

D「CM明けまで30秒なんで、準備よろしくお願いしますー」

？「あわわつ、すいません。本当にギリギリでー」

颯「ではそちらの席へどうぞ。お茶などは出せませんが」

—CM終わり—

颯「改めましてこんにちは、風が吹いてないほうの久川。久川颯です」

颯「はーい、今日も風の子元氣の子！久川颯です！なんと！今日のT i g H u g ラジ  
オにはゲストが来てくれましたー、どうぞ！」

甘奈「はーい☆、283プロダクション所属のアイドル。大崎甘奈でーす。よろし  
くー☆」

颯「よろしくお願いします！早速なんですけど、大崎甘奈さんも、双子アイドルなん  
ですよね？」

颯「わーお、初ゲストが別事務所アイドルなだけでなく、双子という共通項。Dのキャ  
スティング、なかなかやるな」

甘奈「はいっ、双子の姉の甜花ちゃんと、あと千雪さんと一緒にアルストロメリアつてユニツトを組んでまーす♪」

颯「あつ、甘奈さんのほうが妹なんだ。はーと同じ！」

甘奈「えっ、颯ちゃんの方が妹じゃないの!？」

颯「初見の人にはよく言われますね。颯のほうが、お姉ちゃんです。数時間だけが」

甘奈「へーっ、なんだか甘奈たちと似てるかも☆ 甜花ちゃんもパツと見はあんまり頼りなくて、甘奈のほうがお姉さんに見られがちなんだよねー」

颯「今日はお仕事の都合で甘奈さん一人ですが、いつか会ってみたいものです。双子の姉同士による白熱トークバトルなどに興じてみたり」

甘奈「バトル!？」

颯「ポエムならば自信がありますよ。颯自慢のマンションポエム、聞きますか」

颯「はいはいそこまで、ゲストをいきなりなーの世界に引き込まないのっ」

甘奈「あ、あはは…すごい独特なお姉さんだね…」

というか颯ちゃんの颯ちゃんへの呼び方、『なー』なんだ。甜花ちゃんもね、甘奈の事は『なーちゃん』って呼ぶんだー☆かわいいでしょー」

颯「わっ、そんなところで一緒なの！なんかすごーい！」

凧「これは双子同士が並んだらどっちがどっちのなーなのか分からなくなりそうですね。はい、久川のなーちゃんです。そちらは？」

甘奈「大崎のなーちゃんです☆あははっ、甜花ちゃんに見せたら混乱しちゃうそう！」

凧「なんか俄然甜花ちゃ…さんのほうにも会いたくなってきたかも！そのうち二人合わせて呼べたらいいなー」

D（検討はしときます）カンペ

凧「さて、積もる話はこの辺りにしておいて、一通目のお便りを読んでいきましよう」  
ラジオネーム『ツキノワウサギ』さんからのお便りです。『甘奈ちゃんがゲストと聞いて思わず投稿してしまいました！甘奈ちゃんが出ているフアッション誌はすべて読んでいますが、最近のマイブームコーデなどあったら教えてください！』とのことです」  
甘奈「あつ、いつも雑誌のお便りコーナーに送ってきてくれる人だー、ありがとー☆」  
凧「わ！熱烈なファン！いいなー、私にもはやく欲しいなー」

凧「何を言っているのですかはーちゃん、熱烈なファンなら目の前に一人いますよ。ファン歴14年、常に最前列を維持する熱の入りようです」

凧「それなーの事じゃん！」

甘奈「仲いいんだなあ…）えつと、マイブームコーデだっけ？だいぶ秋めいてきたし、



大人っぽく落ち着いた雰囲気が多いかなー。カーディガンとか羽織ったりして」

颯「うんうん！ふんわりロングスカートとか履いちやったり！」

甘奈「わかるわかるー☆色は臙脂色とかあずき色とか…」

颯「やっぱり秋コーデは赤っぽい色ですよ！紅葉のイメージなのかな？」

甘奈「甘奈は、涼しくなってきた空気に温かみのある色が映えるからだと思うなー」

颯「ほうほうなるほど…」

甘奈「…やっぱり颯ちゃんもファツシヨンとか興味あるカンジ？」

颯「はーちゃんも原宿っ子です。丸一日洋服選びでつぶしたこともありましたね。付き添われた颯の気持ちも理解して欲しいものです」

颯「なー！」

甘奈「やつぱりー☆ねえねえ、今度一緒に買い物行こうよ！甘奈、颯ちゃんのファツシヨン見てみたいなー♪」

颯「うええ!?う、嬉しいです…けど！ちよつと恥ずかしい…」

颯「では颯も同行しましょう。二人いれば恥ずかしさも半減です。双子、分けっこ、半分」

颯「それは違うと思う…」

甘奈「あ、じゃあ私も甜花ちゃん連れてこっかなー、双子同士のコーデ交流会とか、

めーっっちゃ楽しそうじゃない？☆」

D（そろそろ曲行きまーす）

凧「…では、この辺で一曲流すとしましよう」

甘奈「おつととと…はーい☆それじゃあ聞いてください、アルストロメリアの新曲『Bloomy』です♪」

—曲中—

甘奈「ごめんなさーい、ちょっと話すぎちゃったかな…」

凧「いやいや、そんな事ないです！むしろお誘い受けてとっても嬉しいです！Pちゃんにあとでスケジュール確認してもらわないと…」

凧「はーちゃん、興奮しすぎです。急いで仕事を仕損じると、古事記にも書いてある。いったん落ち着きましょう」

甘奈「コ、コジキ…?」

凧「古事記は日本の歴史書です。ニンジャ真実も書いてある。実際正しい」

凧「なーってばまた変な所から知識仕入れてきたでしょ!」

甘奈「甜花ちゃんも時々ゲームで使う言葉が飛び出してきて甘奈わかない時もあるから、そんな感じでもいいのかな…?」

凧「うーん、べつにいいんじゃないですかね」

甘奈「あつ、それ二人の曲のフレーズだよね！O—K u—R i—M o—N o S u n  
d a y！」

凧「わお」

凧「聞いてくれたんですか！わー、嬉しいなー！」

甘奈「ゲストとして呼ばれる相手だもん、最低限の情報は仕入れておかないとねー☆  
ただ、どっちがお姉さんかまでは調べてなかったなー」

凧「わわ…プロっぽい…参考にしないと！」

甘奈「凧ちゃんだって甘奈たちが双子だって仕入れてたじゃん♪」

凧「曲までは聞けてなくて…なー、帰りにタワレコ寄ってこ！」

凧「はーちゃんはととも勉強熱心ですね。テストはきつと100点でしょう、凧も負  
けてられないので、80点くらいは取ろうと思います」

D「CM明け10秒前でーす」

凧「じゃ渋谷のタワレコねっ」

凧「りよ」

甘奈（今のでOKって事だったの…？）

—CM明け—

凧「曲からナチュラルにCMに繋ぎ、明けてきましたTig Hugラジオ後半戦」

凧「続いているの便りはー『鯖の味噌焼き』さんから！」

凧「ちなみに凧は味噌煮派です」

凧『今回は双子×双子ラジオということで、お互い姉と妹のことをどう思っているか聞きたいです！』だって！」

甘奈「あー、これ甜花ちゃんにも聞きたかったなー！甘奈のこと、どう思ってるのーって。まあ答えはなんとなくわかるけど☆

二人はお互いどう思ってるのかな？」

凧「んー…なーはいつもマイペースで、変なこと言ったり、変なことしてたり！たまになーの事がよくわかんないときもあるけど、でもはーの事は世界で一番よく分かってくれてる！そんな感じかなー」

凧「よく分からないとは失礼ですねはーちゃん。凧はいつも凧らしくをモットーにしています。はーちゃんも、はーちゃんらしくが一番です。つまり、いつもニコニコ、元気で明るくオシヤレの大好きなはーちゃんが、いつものはーちゃんです。はーちゃんがゲシユタルト崩壊してきたな？」

凧「なーのファッションセンスは独特すぎるんだよ。せつかく双子なのに、服とか着

回せないのもつないたくない？」

凧「凧のセンスは、たとえばーちゃん相手でも譲れませんよ？ただし、入れ替わりマジックは例外とします」

甘奈「双子って言っても、それぞれ好きなものは違うよねー☆甜花ちゃんと甘奈も、好きなことは違うしセンスも別々かも」

凧「そうそう！双子だからって全部同じじゃないんだよ！ゆーこちゃん…あ、私たちのママの事なんだけど、たまに同じお菓子二つ買ってきたりするけど、別々のでシェアした方が美味しいと思うんだ！」

凧「わかりみです。味は多い方が楽しめます。私たちも、色んな味を見せてファンを楽ませているのでしょうか？」

甘奈「やつぱり、甘奈たちと凧ちゃんたちって似てると思うなー♪双子だけど好みは違うところとか、特に凧ちゃんのファッション好きなどところとか、甘奈にそっくりだと思おう！」

凧「なーちゃんなのにはーちゃんにそっくりとはこれいかに」

凧「じゃあ、甜花さんはなーに似てたり…？」

甘奈「うーん、マイペースな所は似てるかな…？」

凧「わーお」イツモノポーズ

甘奈「んんー…やっぱりちよつと違うかも」

凧「凧がもう一人いてははーちゃんか混乱してしまいますからね」

凧「さすがになーの事は遠くからでもわかるよー」

甘奈「甘奈も、甜花ちゃんのことなら遠くからでもすぐ見つけられる自信あるもんねー  
☆双子つて、やっぱりそういう絆？みたいなもの強いよねー」

凧「ゆーこちゃんのお腹の中にいた時から一緒ですからね。年季が違う。築14年、  
徒歩0秒、家賃はタダ」

凧「どっちが家なのそれ」

凧「…さあ？どっちでしょう」

甘奈「??？」

カランコロン

凧「と、残念ながらそろそろ時間みたい」

甘奈「えー！もう!?凄くあつという間!」

凧「15分番組ですからね。D、枠の増量計画の進行はどうなっている?」

D（ノーコメントで）

凧「もう！レギュラーラジオ番組があるつてだけで凄いだからね!」

甘奈「甘奈たちもレギュラーラジオ欲しくなっちゃうなー♪それくらい楽しかったよ

!

颯「わ！ありがとうございます！甘奈さんとのお話もすっごい楽しかったです！」

凧「今度は甜花さんも一緒に来て欲しいものですね。双子アイドルトーク、視聴率爆上げ間違いなし」

颯「それではここまでの相手は、mirrorのだいたい左側！久川颯と！」

凧「だいたい右だがたまに左、ごく稀に真ん中。久川凧と」

甘奈「ゲストの大崎甘奈でしたー☆こんな感じでいいのかな？」

颯「オツケー！」凧「グツ」b

颯「それでは皆さん」

凧「また来週お会いしましょう。せーのっ」

三人「ばいばい！」